

稲 穂

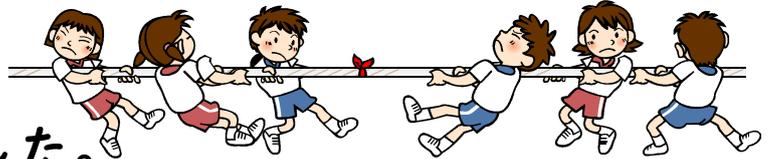
豊崎小学校 校長室通信

令和2年 9月18日

第18号 文責 町田晋一

運動会、相撲大会を終えて

8月後半から暑い日が続き、2学期のスタートから運動会練習が始まったわけですが、子どもたちが暑さにやられないか、とても心配でした。しかし、始まってみると子どもたちは元気に取り組み、体調を崩す児童はいませんでした。ご家庭でのご協力、本当に感謝しております。おかげさまで、運動会、相撲大会と無事に行うことができました。本当にありがとうございました。



～「風呂の温度」という話～

先日、6年生の子どもたちとこんな話をしました。「風呂の温度」です。これだけでは何のことか分からないのですが、「普段40℃の風呂に入っている人は43℃の風呂を熱く感じ、45℃の風呂に普段入っている人は43℃でもぬるく感じる。」この話から何を子どもたちと話したかという、「より熱い風呂に入ることを自分から求めないと、風呂の温度はぬるいまま。」ということをです。これは、風呂の温度を自分の中の基準に置き換え、「自分に甘くなれば、成長しない。」ということを伝える話でした。約束、きまり、責任等、様々なやるべきことに対して、自分で自分をコントロールする力を備えることができれば、ほかの人からとやかく言われることなく、胸を張って生活できる。そのために、自分の生活を見直し、(生活の中の)風呂の温度を少しずつ上げていく必要がある。熱いお湯(厳しい条件、環境)でも入れる(やっていける)人になってほしい…。という話でした。大切なことは、「自分で温度を上げること」。人に上げられると苦しいですからネ。

そんな話をしながら、自分も改めて、熱くても入れるよう、自分の中の「風呂の温度」を上げていきたいと思っていました。

